俳諧一葉集

後編

三

俳諧一葉集遺稿之部

古宇庵佛号 編
幻窓 湖中
坎窩 久蔵 校

一格手入て格を出る時を格と又格に入る時を格と云ふ
格に入格をもてゝ格に出て自在を得べし
を向上の一路とおもひ仏祖を西海に失ふべし 詩歌文章も亦然り
一手業不易一財法
一代門の句八彩色のごとし 宗門の句八書法のごとく 其人の
ごとく彩色の如ふ 仏門にかゝりてさを生を
写さずして一とす

一古人は世をよく観じ知りて名を惜しみ利を捨てんことを
上まハ法さうの所におもむく
一蕉翁俳諧集一ヶ所に
一古蕉撰集ともれこそさしもの
一秀門の俳諧を学ぶ者先翁のゆゑの音韻をの〻清の
日暮みのひさこ所〻に蕉翁越後へ出給ふ時代く
き者〻
一初めのうちは句を主とし文情をわうちに大
ふくこと句の替へ下こと新を業とし六尺をうんと形る
ものまこと七尺をうむ〻きれハ心を形ゆゑ入やすく
んハ早き時ハ古人の胸中を知ることを
一俳諧ハ中人以下ものとなるやすく貴人ハ俗談平語よく変ずる所也

俗談平語をもちんの為ハ拙なくとはうつをを御俳諧と完
ハ海まきすし俳諧ハ美聚集のやしまれハ貴しかく時
とれく味ふ〻を也唐明まくて中華の豪傑ものと恥る
ものハ心のいやしきを恥とす
一まをを人ものあし素ものは第一の品ものハ先哲の俳を味ひ
一まを麻素ものてなるつく〻自の姿ハ青物の小角ものれ
きうてくおれて撥風ものなやまし時〻ハ情を心
事ものをふうん士女の月を詠ものハ月独り梅ハ
ものくるてくるく

右の説〻祖翁口伝也

一歳人翁ものいひくるハ半俗ハ家和の話をわひやをわれ
俳ひいつをを拙をきめ俳いつれのなを花の今し

翁たしなみ給ひて旅せぬ人ハきこえず異見ハ卿ハ若楽を
罪とす。りハそれぞ宝こそありけれ八娯[?]して痛ねも不墨子ル
叙[?]ゑ等の枕行かたくつゆくと旅して又おかのしのれ杉く
おもて花[?]つくして涙せずとうつく杖とカ[?]胄良ハつのれ
てゆくへくとゆくれ素ハ笠島をたんとまゆけよ又旅ゆし
きてと行く涙や蝶婦こえ雲をおくれ[illegible]眠をこうしかしくて
情ありむかしをあく旅ハ保生の書つくのし卯月傍てうけしききて
足ゆれ一とゝき大和路をまけ入て起る物こそとつくれなをく
きこのみたとりもくいてし伝のしのやさそのうんとまへ村
駒奈子しいてさらず胆山ハいとしかすしたる情もよく似する
すれとゆかおゆひたくまむかふその隠し叢蔭のおもむくらく
咲らしうさるを見え

芳野さて花のおもしろや春の花
おもおりうひふる香をうつ所くおもひゆくれそのけしきや
旅の宗祇もいそん

一秋のけしきあまさいやまさりて涼しのあやきの居ハむつまし
秋ハこともりさおそろくもあらぬ鋪葛のてけちるゐ者
古浴しきゆうきみのうち扨お叙橋の杉うふれやうて本り
ますからむかしを読る宗祇の日録葉やいけしわよの入
雲よく人の紹されハ彼の花るともいさんされど発句のけしき
をしるべ本今の人の気付とも
いれつかや闇の方ゆくゑ　往の春
山里ハ芳栄おそし　桜花

一翁ことにみ句を大にして千歳縁に出句を定二義とすなど

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 今年夏宴の式を改め[illegible]

[illegible]

文華は月の花の座を定めるもの也

扶桑ヶ源

一 月花　一 旬
一 出合　一 連歌
一 短冊　一 当番
一 [illegible]　一 [illegible]

一諸礼　　俳止

芭蕉庵桃青判

一諸礼俳止

一出合を近但寄先

一一句一直　主月花一句

右三ヶ條喬式也

芭蕉庵桃青書之

行脚掟

一一所ゟゟゟゟ所ゟゟゟゟ再宿すべからず樹の石上も除とも

ゟゟゟゟゟゟゟゟ旦ゟゟゟゟ

一旅中寸陰ゟゟゟゟ惜ゟゟゟゟ他ゟゟゟゟ物の命をゟゟゟゟ

一異父の聲ゟゟゟゟ門ゟゟゟゟ他ゟゟゟゟ夫をゟゟゟゟ

見ひきゟゟ情ゟゟゟゟ

一衣類道具ゟゟゟゟ足ゟゟゟゟ

程ゟゟゟゟ

一魚ゟゟ獣の肉ゟゟゟゟ美食珍味ゟゟゟゟ人へ

他市ゟゟゟゟ菜根を咬て百ゟゟゟゟ

ゟゟゟゟ

一人のゟゟゟゟ句をゟゟゟゟ

ゟゟゟゟ説ハ従ゟゟゟゟ

一ゟゟゟゟ喰酒の後ゟゟゟゟ所ゟゟゟゟ

中食ゟゟゟゟ

一ゟゟゟゟ一枝の枯枝をこゟゟゟゟ

一母て酒を飲へくられ饗庭の[illegible]かくるを微醺
みを止へ[illegible]ゆるれ棒ふるく能果の戒多子醉を
開きを破をふく先八に酒を者さるの問を性をへ[illegible]
一船務系代をくまくくふに
一他の組を年を色を長を所をを人を謝をなのも
ほををも甚いや
一俳諧のお教伝すくふに雑話却れ八居賊くを芳を美へ
一女性の俳友ををくふに師を朱子をしく教をを
吐を子歌交を八人をを侍の一勉を男女の色八闘を三
百色を流落すれ八心数一をふに道八を一学道をを
をを雅おのれを者へ
一三百物八一枝一華をを山川江ほをを

はををや
一山川四海をを弟八新を私の名を付をを
一一字の師恩をを[illegible]の一句の理をを
きを人の恩をを[illegible]人を者を八色を者を恩を
一一句一枝のを[illegible]又媚諂
をを[illegible]の人八世の奴を[illegible]入を八氏色を
人を交へ
一[illegible]且芳の[illegible]を八[illegible]
を[illegible]人を芳を[illegible]
世をを思へ
右の海を赤門の行脚八性を[illegible]尺を氏の筵
ををを御する俳客一人を外一不を題を莫を俳を

利休の茶に侘をもてはやさるゝ所也しかれとも世に識る
古人の名を実在己の稀なるものより起りてまたひたすら八珠
千筆段をとりつけて粉粥を実の境にして和文の功を定めし

一 蓬莱にきゝたや伊勢の初便　翁

翁深川よりまたの文にて此句を出されしの由にて沙ひかれの御筆の祐
みやこし言を起に又八去りの便とて伊勢の待るハ元日の
式のそゆかしう思ひある作代をしのびるて便りぞ承はりける祖師の
むかし胸中をさなうるのてうつかり待れるや翁逝去の
ぬるみなか家さる有らぬハ今日神のかしこまりしにかつゝけをおもひ
むかし望結和尚の詞を使う神の一字を冷し清浄のうるはしき
をも蓬莱に誇してはなひさるゝなれ

一 かくされの松より花より朧にて　翁

此文の化先前の論ありて世に眞の八扔かなと此句にいと哀
発句にうつして前の次第を婦人の事によひて八句切迫れ八是しと名に待
るとし是九ことて前のうち八世の前を翁いうて又是八次才三の句とし
いひ発句とされ訳しきゝやすくるべき是八最無造偶にて発句
ならて物ひれし其之八句案に渡るにし句案に渡るまん八
其才二句になぶん翁言えし曰此句言末ノ翁ハ丸ノ印居しあれ
此花より松の朧にて此きしろくしのみさし

一 或人かくされの松より花より朧にて翁曰方寸の上にぞお
れしいとさくらみやまの入江の詞をこめしひとつの言葉の
ちをとへて此只賦をおもひれとなされたり

一 或人此のかくれ其句に切字なくて此世の句に詞に其筋

白ゑて切字のなき説て待ず何ぞ白ゑを覚めずと
翁曰余ハ切字のなき有しも此の治定を考して作る句に
初より只眼前の事のみ思ひ浮ぶとて及ず毛頭これらの用意
しらず見えしは此句をもつて工夫する事なし其句に気を切
るべき事にこれなしといひしとも

一　ゆく春を近江の人とをしみける

翁曰尚白が難に近江ハ難波にも行春ハ行年にも
ふるべしといへり汝いかゞ聞侍るや去来曰尚白が難あたらず湖水朦朧
として春を惜むに便あるべし殊に今日の上に侍ると申す
翁曰しかり古人も此国に春を愛する事をさをさ都におとらざる
ものを去来曰此一言心に徹す行年近江に居給ハヾいかで
此感ましまさん行春難波にいまさバ本より此情うかぶまじ

風光の人を感動せしむる事真なるかなと申翁曰汝ハ去来共に
風雅を語るべきものなりと殊更に悦び給ひけり

一　此木戸や　鎖のさゝれて　冬の月　其角

猿蓑撰の時此句を書おくり下冬の月霜の月と置煩ひ
侍るよし然るに初ハ文字つまりて柴戸とよめり
柴の戸と読り翁曰角が冬霜に煩ふべき句にもあらず
冬の月と入集せり其後大津より翁の文に柴の戸に非ず
此木戸なりかゝる秀逸ハ一句も大切なれバたとへ出板に及ぶ
ともいそぎ改むべしとなり凡兆曰柴戸此木戸さしたる勝劣
なし去来曰此月を柴の戸によせて見る時ハ尋常の景色也
是を城門にうつして見れバ其風情あはれに物凄く
いふばかりなし角が冬霜に煩ひけるも理りなるべし

一　しやうしやうはいかなる猫の恋　俳人

菊は白と伊賀より来る方人古歌にも俗情ゆゑの一ふしいまかなとうたへるかれの風雅ゆゑ中性をゆゑ
ひとりとしを見ると先千俳人の名四方に人の見るもすべて
黄白おのれ知れるも先千五て初て中性をゆゑ八ゆゑ
宣ひしとなり

一　本こうしに二ツ付ものゆゑ　萩子
本ゆゑ二ツ付ものゆゑ　古来

本を二ツ付ものゆゑ古人ちらくくふるゆゑ白と恋
千ちらくくふるゆゑ菊を二ツ付ものゆゑ白と恋
千花月を除ハさるゆゑ白ハ俗を以俳ゆゑ
今俳のゆゑ白と恋ゆゑ

一　ゆゑ八俳ゆゑ　萩子

一　菊は白を伊賀の仕方ゆゑ我の名　伊賀
菊は白を伊賀の仕方ゆゑ我の名
和ゆゑ丈草を伊賀のゆゑ八ゆゑ
なれゆゑ千ゆゑ八ゆゑ

一　起ゆゑ千書ゆゑ　杜子　伊賀
ゆゑ書ゆゑ　日仏
ゆゑ八ゆゑ　日仏
ゆゑの舌千の変　日仏
俳ゆゑの俳ゆゑ　古来
られ八善ゆゑ古ゆゑ本後ゆゑ古ゆゑ
冠八ゆゑ中ゆゑ白八今詩ゆゑ
文字ゆゑ

一　おく指　野水

[illegible]

一　[illegible]　[illegible]人

[illegible]

一　[illegible]　[illegible]

[illegible]

一　[illegible]　[illegible]

[illegible]

光閑の松の事も風姿ゆうとし北ゆきて菊四北ゆ　拾八
番いろとん事伊勢の道中の句千是子伊勢ゆうとれを直
しく此句とるとんとし孫千方乎ゆ句とゆく

一　大事をおもくいハ年　おかしくふかうれ　凡兆

元の本文言過すてとかく言本ゆ句し言本ゆ此貴句事ハ
し信法云光雅と言へし花を雅人の也ゆと切し言本ゆ物
うれ事迎ゆう古人花ゆ本ゆ言ゆとゆ句ゆ情く
人ゆうくみ山ゆ手ゆ言ゆ命のまゆと及ハ
雅と直ハ和て事の敵とゆ句ゆ俗ゆ句ゆ信法
和ゆと事ゆ菊ゆ俗ゆ菊四ゆうハ信法ゆ和ゆ
とゆう手ゆ俗ゆ大事ゆ冠ゆ菊四ゆ一句ゆ事
の敵しいしくゆ事ゆの法ゆ大法ゆ　まゆ

一　武弥ゆ用云うゆし花の葉　士来
菊四花の葉ゆハゆなれて名所ゆうゆ古人ゆ毒ゆ狂
ゆ結ゆとくゆ詞ゆ一ゆ句ゆ拾ゆうゆ

一　月雪や弥ゆふゆ甚ゆ　我人
雅ゆの根の俗ゆ本ゆ演ゆ信丹の句千編ゆ俗ゆ
ゆくれゆ弥ゆふゆ我人ゆ句入集ゆ句ゆ信ゆ菊四
月雪ゆ一ゆ句ゆ一句ゆ風ゆ句ゆ風ゆ
我ゆ句ゆ我ゆ句ゆ俗ゆ句ゆ俗ゆ
千鳥句ゆ俗ゆ以句ゆ俗ゆ句ゆ
ゆくゆ折ゆあゆ

一　きくれる雪の　沾　共角
士来師ゆ斜ゆ共角ハ俳千伝考ゆ伝ゆ雪の吟

[illegible]

一

[illegible]れハ稼らの二三年以来の吟し菊日比句と共人[illegible]一句
[illegible]年[illegible]しとし[illegible]杜国の姿と芳野の御[illegible]
[illegible]の[illegible]成ハ[illegible]れハ[illegible]
[illegible]に魂[illegible]れ又ハ世角さ[illegible]
[illegible]れて芳野句[illegible]
[illegible]吟し[illegible]
[illegible]合一句[illegible]
[illegible]

一

[illegible]
泉[illegible]
稼らの提の対式[illegible]句入集す[illegible]
[illegible]ハ句の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ拾[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

菊

一

[illegible]月の言　古素

[illegible]上洛の対古素西東ハ式句と月の稼と[illegible]
ハ言の方[illegible]菊日稼[illegible]

いろ色ひろく作るべき事なり句を案じて山路を作おく作るべ
き所なり又ひとつ雑案とて所口こゝろひろく月
の雪と梅の花と春のあけぼのゝ風体なるべし此句
新の句とおもふべし此句八番にて敷島の小文にて入るべ
き事なり雑向八番二三句とうつ作られん所の句をいとは
かし特色の句をこゝろゝ作るべ退き
めの句なるべし又句面をまもるべしと十信をうまもるべ
き作者なり句の句の集し方とおもひ
きとなれば草稿はうし迷化ましくうすけるハ子の貴句
作句の為に入作るべ句所口系門人敷の小文集に入句とし
おくべきものハまれなれば此分のことゝとゝとし

一つくさらの事 こゝの言さうの句 文草

一

菊新作の高作の人々に数作の句をすゝめて今日より系新作の句
一字の句作をかはるべしとおもふ作るべしと
此一句のゝ文字も未されらうと言ふ所の句ハうら撰ア
新句作るべ無き花しを物と量はるんやと此作を
作りし知作るべ

一

こゝ言句 きつゝ上れ花の雨 凡兆

此句神子冠れ菊を作り此冠を撰べ
凡兆ア作さいき歳を菊日凡兆句を物と冠を至し
もしきるものゝハ系二段作を之ふたゝし古事を此文字の
ようとハ作べき新作れ此冠ものゝ作るべ
此句作門の人句作ハ作ハ後ゝ作べ冠至一キ
至ゝもの文言さうとべ作るとし

一　ゐのしゝの寝にゆくかたや明の月　去来

此句を伺ふに翁暫くして、とかくを言れず。去来おもひ
けやう、是て浮とやとも功を待ち秋の夜の寝るを知給ふる
やと、しかし此よしを申述けれハ翁曰、先ハ申さんや、古人よく
是れハ寝ぬかめとて、やくもし山に入、獣の詩歌おくる花の上に
ともよく見る和哥優美の上にさへ、かゝるを悦ひ
自用の上より出る岩の音色を化されハ、文字のうへに知らる丶一句
なり、しかれハ志あらく案じめぐらしてとかくに許さる丶ともに
去来ハ浮世の中に此句ハ郎として、ひとつのことをとる、住し大ゐ
の和哥の同案よりもいふとも、柄にあそぶ志所となる
一　去来ハ其角の撰集に得しとて、中ん浮世にこれる尾張の人の句
其角の合風に一節嘲るところの次に先生ハ句を此て此

句を詠みて此句発句ハ、此ふの如く陽になし、又其ものゝ語ハ此
とくし、支考倒に消えて大に感動し、弱く発句とするものを和句とし
此頃ものがたりを、去来ハ京にて笑はれしかるをやし此事
絶えてかくなりて、去来も作るといへども、これあけれとし
一　二郎子浅茅にうけるや糸ざくら
翁語上りて、去来に傳て曰、此詩其角が集に此句あり、いかで失ひて
入集しけんとし、去来ハ多様の中に入かる所をよく云得たり
是ぞまや翁曰、いひ得て、行ハ何も去来ことにおいて解に語
するを、何も好む発句ハあくまでもおのれしむ衣代を志れとて
一　まつたけやしらぬ木の葉のおもる月　去来
鳥羽町に来りて此の句と翁曰、此句ハ、寺といふて、功者より出
いひおきむかしるを去来ハ心さしてあへるとも句の上に

[illegible]

一　[illegible]や　[illegible]代　水はけ　[illegible]　史邦

[illegible]

一　[illegible]　宗次

[illegible]

一　玉椿のかくれしや　[illegible]　吉末

[illegible]

一　[illegible]　吉末

[illegible]

たゝ[illegible]と試て[illegible]句を結して[illegible]ハ又是[illegible]
外[illegible]と大笑ひしのひろ

一　けうゝゆふる併のゝ[illegible]けゆまゝ　くゝけ　浪力

ん[illegible]ゝ[illegible]ゝけハ麻畠[illegible]ん吉[illegible]ゝ[illegible]
ふけと編手菊田又[illegible]ハ[illegible]
ゝ尺ゝ人[illegible]

一　ゆ[illegible]の一句併のみ句す　吉帆に　帆　吉庵

吉庵ゝ[illegible]みの八行風の併めし[illegible]句ハ[illegible]巣の鼻[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
吉[illegible]ゝ[illegible]句の[illegible]
併[illegible]又一句[illegible]ゝ[illegible]句ハ[illegible]

兄弟[illegible]兄　合[illegible]　吉庵

吉庵ゝ[illegible]句ゝ[illegible]ハ[illegible]
併[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

一　みゝと[illegible]　横　[illegible]

吉庵ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　吉庵
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

一　梅　千　すまの　枝の　百　吉未

うれハ来五の根し菊流川こ内　菊曰　梅八二月の　まこと　吉未

千ゑひ涙こ来五の服千用ひ　[illegible]ん

一　舟　こ　[illegible]　ゑ　の　こ　[illegible]の白し

[illegible]

上京の[illegible]　菊曰　舟の中こ[illegible]

[illegible]

一　[illegible]　有の　中　吉未

[illegible]　菊曰　[illegible]

張といこ[illegible]

一　こ　ち　[illegible]　[illegible]

[illegible]　菊曰　[illegible]

と百[illegible]

一　[illegible]　[illegible]　吉未

[illegible]　菊曰　[illegible]

[illegible]

一　[illegible]　の　[illegible]　[illegible]

[illegible]　菊

此句ハ[illegible]付句ハ[illegible]付ハ[illegible]付句ハ[illegible]付ハ[illegible]

一　くろこし　文太　樫の木は　森

咲花ちらさぬ門とかりの入り　菊

此句ハ[illegible]付句ハ[illegible]付ハ[illegible]

一　綾　れ　初[illegible]

[illegible]　吉来

此句ハ[illegible]付句ハ[illegible]

好青ニ上蔵の旅[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　ふるけりわれ　や　秋　風　正義

中ほんし　中きり　わくこ　有　彩子　吉来

正義発句ハ[illegible]

付句ハ[illegible]

也翠発句ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しかるにひとつ去来ニ廿付て有新しるのひとつ定して
上五句作りとも只白のきやけ其處をいつくんとのことつく
て信をうけれ給ふやすきに翁曰其句をもさハいくつの酒
なくんば此度の撰集の趣を一ッひそかんてうをとゞめ一しも

一 ふるみち子 来とも 志らく 作 去来
此句生得おもしろけつく作元祖 翁
翁移りより世俳の古人の文字此句をゆるかし此道の他ぞいさ
此世界をふられれに手え随分ねくしとひとしぬふる也となりと

一 赤人は名それ信のなるまゝのなりみ 史邦
翁文字曰中七文字能見られよ貴句のさけすく定後おほく此とし

一 韵字の本色やもらん云々の 句 去来
とやひとふん定月の韵といふをふりすまく本意をおもふん事

此句をよくつ翁曰此句ハ等閑をこまく會さらる句なるを能くまつ

一 もちのまゝ鬼の渡れ蝶浅く紀 翁
魯町ニ此句意を問ふ去来云其書を以て俳諧を趣ひてくゆかれ八子
俳の業とおもふつへし是を理會しへうれは撰集の趣旨
て知へしむかし翁此句を語りて弟子其角鶏ずる翁曰此
ときハ怡んもの心をも紙人のこゝろをひとつ景して出しく〳〵鎌文
此撰集なりしとぞ

一 梅の花あかいはあかいはあかいはな 惟然
去来云惟然坊か今の風大かた此類也ふたれ句もつかふて先
師遷化の年の春惟然坊か俳諧を此きらひむかし千里あり
口質の變るをすゝめて被申ければしと後ニおさく哉八秋
此本ををまうしと風の句をすきなさうになを責しうる文件ハ

[illegible]

一卯七月[illegible]

[illegible]

[illegible]

一卯七月[illegible]

[illegible]

ともに一面ハさくらなくてハ花とハ不申花なりとこそ
やう成ものを花やうなるといふ事よろしからず兎角のさくら
ぞのうちまして是を思ひ侍るに此白されバ古ハ四季のうちに一季
を花桜し此句を定むる事なれバいかにも花として
されども当世の桜なれバ随分ならんとし侍る余きなる
脇一句にて咲てくれるといふとしかれハ句の意をまもる咲び
まひろり

一 卯七聴所に芭蕉門にして先挙句一句として挙句ハめで度言葉を専ら
ゆるやかにしてこの句此日古ハ定めの句をさしてかふして勅撰二句以
上多句となることなれ式の法に一句として挙句ハ大切の定め句にて
挨拶ならんハめで度として一説に是ハ諸国和合の句なれバ
一句として挙くかぶれとも一句これ大切の挙句にて有し事の一句

まことも挙くといふも大切なることにて有し此なれ紀中にし第ハ先一句
あれハおもての仕立ハ定めを守りけるよろしと挨拶やう又五十韻百
韻ともいふとも定め句なりけれハ一巻をいふとも作品とすかく
そなはり大切なる事これ定句にもあるこれバ二句一句にもあれハ
幸とし却て巻中定句あれとも又多くハ定句より句をふるへ
挙とく一巻を不如挙句なれハ此所に定句ならし付まずらん時ハ
二句ぞ五句も定へし付るとのぶん時定ひくて付侍るとも一句まれ
挨拶といふ所いふも仰とる巻頭のよく定句を成すもの
おもて成し物の上を所いふハおそれある作れとも又ハ主客
知らず俳諧の上下ハかぶれて本当にあらし古のれども是れ
古人の品人なることをかためのれし其縁号の作りしからぶん
ことと思ひ侍るのミ

一郭七ヶ五門ヶ有関を有ヶ用ひ付や立ヶ墨
ヶ源門の舎ヶ有関の句むらゆ曰有れ句中ヶ有ゆれハ
ゆヶ月の句をハ拙ヶ〳〵と且ヶ有ヶ用ひさて句ヶ
月を尺をこゆへとめ月次の月の字を入ヶと云ヶ
一理彼ヶ京武の舎ヶ多ヶを解義ヶを八罪也ヶ蕉翁ヶ
曰多ヶを解義ヶを八西有ハ祇句ヶ有ヶ〳〵ヶ
ヶを退ヶ〳〵ヶ有ヶ〳〵ヶ有ヶ〳〵ヶ句ヶ解義なく
ヶも既ヶ多ヶ〳〵ヶ八解義なるんヶ中ヶを立ヶ〳〵ヶ
と西書ヶし
一翁曰世上の俳諧の文を尺ヶ〳〵ヶ武ハ浮文を編ヶ手ヶ和ヶ武
世和家の文字ヶ浮文を入ヶ系ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ
武ハ人語ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ今日のさの〳〵ヶ〳〵ヶ

西翁ヶ俳ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ俗ヶ〳〵ヶ俗の文字ハ俗ヶ〳〵ヶ
立文字ハ立ヶ〳〵ヶ浮ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ
俗の字ハ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ
一翁曰談名和の義句八世俗千年の句と尺ヶ拙ヶ〳〵
和りの俗を定家の結ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ句ヶ
付ヶ〳〵ヶ八拙ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ
一翁曰熊名八ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ字ヶ〳〵ヶ
俗ヶ〳〵ヶ用ひ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ尺ヶ〳〵ヶ
ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ字ヶ〳〵ヶ八若ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ
自俳ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ文ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ
又の〳〵ヶ字ヶ八ヶ〳〵ヶ用ひ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ
一ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ〳〵ヶ

一ことに侍るとせん揉みの附句の言ひて性を覚ゆる也
一貞門宗匠頃よりは古来より季をや言ひ来る事も伝され句の句て
を知りて只侍る古来の季をふまへて季を無きへき物語などは知らずとて
は用ひし句の四季の外の一句を探し出しさふらんは俳諧者よりも又賤しく
とかく増らさの様にて古来の季をさらしけるは尤是もて候へ月俗
見られは又季を定て百句の句を捨て伝へし侍るへし
一古来の俳諧集の持紙はやくも俳諧集のうちより出しを経さへし其
細かの集の如くを見へて句を家に折りのひおかの傍れし芽
集め古の詞を変りて要言の中に入をとりや出しへし句曰俳諧
古の名は新古詩文史録物語和らにちいさくは俳て見へしと云べく
されは又句の名付をふやへて其みやし栗三日月夕派の名の
ひさこ猿みの蕉の松原撰みの文ともれその掛を書ふと浪化集

の附句は段々とよみ山となりて其句曰これ和哥には無き所なれは此方
はし浪化集と等へしとなし
一翁常に曰上手は宗因なくんは今に俳諧を以貞徳の流を汲むなる
所也宗因は此の中興開山なりとも云へり
一翁曰今の俳諧は此流工夫を付し席に臨ては筆先をも以吐へし也
其言葉をくふうとし
一古来之句は門人今に数多ありて何様にても残は大きにかへりみる
てよろしく其のへは平に示しおのつから句をさの念を入るものゝ
はふくは又一句はまつよく俳言にしてもまなくしかし飛ぶに一句傍を
十七字一字もおろそかにせぬへくは俳諧もなきその手和哥の一読
あり一句を手柄にもする事よ化にすへしとよし
一翁曰発句は頭よりすらすらと言ひ下し来るを上手とし翁師事を

義て四数句ハ此ってとく物二三ハ万集の物にゆりかこゝろみをおのく
こゝろにとくへし

一 詩歌の数句ハ五合をもつて前句に乗し付よせ可いふへき人
是しかやとし

一 古来の此句句に自然といふ事文ハ文字の道を詩歌の如くた之ハ
ふりふらし小艇ふとこ句をおゆくられし小艇を運
と化れハ句法のゆへとし古来のてを続作ようのしも此句
古人とらて趣やおもかんとくいふやとし

一 前句数句ハ常よりさりしかとく付れ付句ハ之度中止あらむ
うしハ付物とるとす中作ハ心付をゆよそ今ハ一つ 御音聲位
を以付るとよしとの杜年のいう所とし 御音聲ハ移とハいふや
古来の文意おゆりよしをこゝもの是とかとゆてそくかん

いひならし今の気此の律をゆけて評する代ハ柳てゆへし

来人 此為に法られさる 禅の手すと　史邦
句 も きりひつる 合 点 あるへし　去来

此句をつとよろめかひとこゝやそしに古事井之十棒をよう
れるときしあつと悦ひつひつる気をおもく八ゆ此ひとふも
よつりとさくつけこゝろ句化のゆやむさのゝとのためよのさら
ひなれハ冷暖自知の財あつてとくさとしゆるとことならずかる
まし来人の気を押しわやとゆく八るよさひつる事あらし
とも作る人およそ為を作れるとこゝろよう合点あるへくとと
おもつゆく乗味ひえつるへし 御音ハおハひとくらとし 聲ハ

くれ椽を銀大起をうちくまね
身法るき大力此反方を尽よ

[illegible]

一　[illegible]
いのちうれしき極楽のさと

[illegible]ハ和歌の夏後ハしるひとけうの菊日記と題行後図
[illegible]

一　[illegible]
菊日いろさと後を保なるんとも

一菊日[illegible]
多敷の[illegible]天象池形人事学本宗意
一菊日附物[illegible]
[illegible]
一菊日[illegible]
一　[illegible]
菊日さ[illegible]
一　[illegible]
菊日白の[illegible]
一　[illegible]
菊日[illegible]
一菊[illegible]

化し侍らんや菊田氏はしく今の風なるへし五七五七七ハ又一変
ゆゑんなし
一丈草問長歌短歌ハ混されけるにや菊田氏の云しハ歌
もとより定れることなし万葉の時ハ季吟か其事を論し
て古今集の長歌短歌此集にハ混して傳へたりし然るを古今集
の短歌の如きを旋頭歌なとゝ混し外の国語の長歌古歌
なとくいへる長歌なとゝいふより古人ハ論して不決定ハ称
本朝の撰集短歌といへらんと万葉に短歌ハ皆旋頭集にも
よりされ三十一字も長歌といひ六尺の如き男女上古の歌ハ皆
といふ長歌の体裁としやまとうた三十一字此体あり是を短歌の外ハ
反歌とも云ぬ旋頭の歌なとまて云の外ハ長歌ハ皆仮名一
首哉ハ二首とも長歌といひしよりも既に三十一字の歌を短

歌と云ふ是ハ雑歌とも長歌といへり長歌此名目混しくも歌名
長歌としといへる事ハ云伝ひしよて長歌と云ハ万葉集以後の名目とお
もへる三代集以後代々の勅撰集も三十一字の歌を短歌とし不審や
同しからす上古の歌ハ是れ長歌也後の歌ハ短歌也唐土古詩今体
をいふかことし　貫之ハ其草の序にいへるハ短歌の訳と云て詞
書に長歌とかきたるハ誤也かの旋頭歌や混本歌なと并に也云
誤りをしるさんとするよりもうち綴りて絶しき体を付たり清輔
勘注ハひとしく長歌を短歌三十一字を長歌と定めたり顕昭
鑒開色へかけ
一丞東問三代の歌人皆古今三代集を祖述する事なるに此
とく千禄まて歌此三代集を学ふものにも似めきてかも知れ
菊田氏も其の人にしてもあるをまもの人の本家を知事なり

定家ゝ隆ゝを作ゝすゝと賞之弱恒ゝもよゝされゝる所なゝん

一 西行の西行今集ゝ歌ゝ多ゝ歌ゝ人ゝ歌ゝ人ゝ歌ゝ

所なゝん歌ゝ歌ゝ一首ゝ歌ゝ三ゝ歌ゝ撰ゝ

一 歌一代ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

一 本節 同本注の歌人ハ注ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

ゝ歌ゝ

一 本ゝ西行今集ハ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

のゝ西行ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

一 歌人同 西行今集の詞ゝ六義を説季吟俊詞ゝ六義をゝ

歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

説ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

の二ハ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ歌ゝ

一素堂云今の人高きをよむ事を萬葉體とて俳席ある事をよむ
人あり萬葉ハ詩の三百篇のごとし後世の作裁抄の一つにあらず
詩に古今の體あり詩經の體文選のごとくまた一つも
是を用ひずして作を慶さんやうなれども見れハ其ミち量を
萬葉體をよみたる八雲の風俗をしらずしてよめハいかん古今
集ハしも作るに時あれハ差定めの風物にしたがふも此作をさて出
よまんとする萬葉ハ費材をとらずしてかしこし手作裁のよくなとし
く習ひてよからずいかにせんと芭蕉曰先き寄まりて返す入
此語まふへしと予此一言を感ず
一卯七上京の時
萬くらも海むかうかけ沈むの海
翁の大津にありし時みやまきしと申さんとけしめ地波をたさ

作りしに世諺云ふ事もよく成しよくはつくなる事へしと
先生を見さしつゝその方よりふんとこう大津より先丈子に尺を
しにそやさて安へき物をへ作れども人の口のおかれか
今くいでし世にかせ尺をやさしに此曰よく此来きうけを
くしし海を思てさん移人の口乎徹すへし肩衣のゆるく
をまうし作ふハ禮もおを付て扇をさして尺まへと宮
ひし
まうらくもむすし
一去来の云撰集の風雅集むし作ふんと此の差をまし家他に
ありし作り載作ふへしひしと翁曰今は集作ふべし書きを
たまへし時萬八撰集何とて高をとみし人ありかる
俳諧ハなを続きて高あり
正風の句の古くつくを俳諧文としてうたひてんや翁曰余儀

[illegible]

一歳[illegible]

[illegible]

草[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

一式八古式ニ倣ヘ

一[illegible]

一古代ノ白文ニ[illegible]

[illegible]

一[illegible]

一尺[illegible]

[illegible]

一代[illegible]

[illegible]

一正[illegible]

[illegible]

ひらがなを以て題とし此をはじめ聯の字式と伝授ハ但そ
れゝ姿の変化等今日世俗の上手しゝ系伝授ハ四を用ゐ雲
又ハ仮しゝ字義をもく時ハ中ハ指ハ中
雪の伝授ひとし遠方をひとり易くハ其ハ四
遠て雲ハ白を取ゝ伝授ゝ知ゝ知ゝ知ゝ更ゝ知れ
伝中むしの伝授も大うゝ時きゝ利ゝ知ゝ
系伝授ハ白の四を知ゝ知ゝ白の上物ゝ意今ゝ
物の情を指ゝ知ゝ知ゝ知

俳諧とは[illegible]さる八重垣を[illegible]
するものの事歟[illegible]俳諧[illegible]
[illegible]八代[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一条の兒愛京武行の庵にて菊を詩中にて菊花
[illegible]
句作りとて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢ものがたりの一段

[illegible]

[illegible]

[illegible]

是別段をしかくうるしをかけるの物をもつて蒔の時のあつかひ
をもつて八更に一句を然る事あり
大性の大いけを猫をもつてさぐり　言芳
と云然るを猫をもつてこれを所望し其句を見てたぶ
いにしへ一句をもつて前の句の注解し新新紀るのゆへ注をる
特拙しかるべし
一石　ふるみし　かしこげなり　み米　沾圃
と付るを然るを人をいかにさハぎしやるをもつて
大性の大いけを一句を尺る所を去れを注解を
をもつて千人の情を以一句の是をかつてこれを見代し
初て不意なるをもつて初下　山体を人ハ注く意をもつて
さる人ハ何ものゝ如しいつれ共さる八尺を人の長分なるを

ゆ猫をよみと　松尾の吹とを付をもつて付さるを所ゆ
いつし問ものゆ　をもつて蒔の時の蒔を尺るをもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
山体を家八分一を乱をもつて　村をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて
をもつて　をもつて　をもつて　をもつて　をもつて

[illegible]

[illegible]

以外をうたをうつしお醫者 松平

とはなるものしく降うる中ハ箱丸自丸迷無拙之
事情はなし事をくりられと左右のもひまして八附詰外 高声
とくに仕ふる裏表の自分ひきをうけてうけさせて走る一
持して一自手心とまる力ゆく是を鄉音とうり行方付方
無夫人の合術徳外とうとくしゆ得ふるとよ
却風ハうすしとうをうを天とうる自ひをうけを自ふから
ゆを持自も持ちまうを力をとめしてこれを教分
というう方のほうしを和答の付をこの鄉を聲をを通ふ
似性ハ行ふをうして一問をしてふ自ふいうを
自日見ハ方自分指をををけをゆをはうをうをはうを
指方分言の者のをを居ををハ自の付性を

行をうをとの名用しまをうをかををこをを名用とを場をを走ををつを
をを却ハ芸行日し条心をを附詰ゆをハ自立ふこを何を本をる
及ハをを人自無を益合を八自自立ふを名用ををを自
をは話なを何をを繪をを書ををしを味ハ未体を居ふる及
ふをを自他ふをハ物一ふををををををを左れをハ
ひををふをを用のををるものをこれをををををを
こを居をゆをを越ハしをを変ハををををを物を取
ををふの二ふ業ををををををををををををハふ
乃他をを様をををををををををををを

歩くゝ小車をゆるし若しめて養車をゆるし是ハ少の技不
しきをまひまゝ釣すきをまひまゝ人を終りの之ゝ勿論代門
れ人をんを用のゝ之やをゝ之ゝ為をゝ
一歩雲間歩分を為ゝつゝ集ゝ仕ゝ之ゝ為ゝ
為四ゝん早一きゝゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ

為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ
為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ

世一代集の対八吉の手稟よりはじめて俳諧し文の古今新古今
しゝ千代くの俳諧を取まぜはせて沙摩ぞ八千俳諧の
さとうさうさうあるべくもあらず集とうふく文八手のかの
そうしいとあれ俳諧とても同撰なるべく歟なるべ京宗玉
撰集のてとに紀氏の尺の文とうら第手紙の文とうとて続
文影の集の吉し人の白くもく八集のこれ八とて手紙むし一発抜
きれ八ゆくに以俳諧ゝきん出手紙と染仏めうと名ゆの歌なう
時歌ゆきゆくしゆめし京宗と雑詩きうゆふ人の上を
以義ゝ二字ゝ手ゝ問ゝ撰ゝ毛ゝ毛非かゆふ作ゝ
うれとゝ手ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ
同じ作の白とゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ
ゝうふふうゝあゝ上京の白八四のうゝあゝ

ゝうゝあゝ俳諧ゝ手ゝ俳諧のかきゝ手ゝ俳諧のゝ八集のゝ白ゝ
ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ集ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ
俳諧の一発の姿ゝ手ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ
千貞宗宗因の白ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ
きこ八俳諧の俳ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ
俳諧ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ
俳ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ
俳諧ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ

一尽宗因の高弟と称仕一代の問答の集を尺くゝ八みゝ
箱根詠みゝ手ゝ俳諧の作ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ
ゝうゝくゝ文ゝ箱田ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ毛ゝ

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 秋の月八今ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋のいろめ[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　新蕎子小坊主のうや大根引　羽

作ちゃの日大根引ハ是子ゆゑ大根引ていてとと
あ[illegible]子ちゃ生れしゃ

一菊田清しさるしきもの八雑家取りうとそそしゆゑ[illegible]
子ちゃ日八清子ちゃ[illegible]ハ清点ちゃ子ちゃ[illegible]
蕎と蕎白のようゆゑ[illegible]ちゃ[illegible]ちゃ[illegible]
天笠子蕎二人ちゃ[illegible]ちゃ[illegible]一人八若く一人八年ちゃ成
対ちゃ蕎の方ゆゑ[illegible]ちゃ[illegible]ちゃ[illegible]
又ゆゑ対ちゃ女房の清ゆゑ[illegible]ちゃ白髪ちゃ
くゆゑ[illegible]子蕎ちゃ清ゆゑ[illegible]成書ちゃ
是点和子及ひ式ちゃ[illegible]ちゃ[illegible]
もゆゑ[illegible]ちゃ[illegible]ちゃ[illegible]

よけれ至子曰為政不仁仁者不富ゆゑ式ちゃ[illegible]
一　[illegible]ちゃ[illegible]ちゃ[illegible]
一　人のゆゑ[illegible]ちゃ[illegible]
一　蕎門の人八蕎漬三石六斗ちゃ[illegible]ちゃ[illegible]
[illegible]ちゃ
一　[illegible]ちゃ[illegible]ちゃ[illegible]
右四ケ條組蕎の解書ちゃ[illegible]
一蕎文坊ちゃ[illegible]ちゃ[illegible]ちゃ[illegible]
[illegible]ちゃ[illegible]ちゃ[illegible]
一蕎田白ちゃ[illegible]ちゃ[illegible]
一[illegible]ちゃ[illegible]ちゃ[illegible]
[illegible]ちゃ[illegible]ちゃ[illegible]

[illegible]

[illegible]

七月十四日の秋高岡金谷を過て大文字を見て越ゆる大井川

[illegible]

十四夜なれば秋の色

うけそへの月かゆれけるかゆ[illegible]の春

秋の色いろ〳〵[illegible]

[illegible]

[illegible]

他門とも云ふる一人と屋敷式魂と河朱と説と云ふる通りさ
し見者り本宗今日を生きとうと大きり悦ひのひ撰集と云ふ
と云ふる平原山人云ふ事と出てるし称ふ事ふ雪の業
つくし四つ手俳諧ハいひ縛と云ふ事切て作る対句曰俳
ふる俳諧と晋ふる俳諧と人宗合と云ふ見元ふ俳諧と云ふる俳
諧ふる宗合すと云ふ式一ふる力をえて戯協すふる
されハふる射句の作しめふる句心中大手出ふ式俳一ふる
伝ふ所力ふふふる句ふる射句さふふ心晋ふる方一
点ふふ元白百四五十ふふ句ふる点ふれふふ
ふ称の白ふ虚実の点ふふふ俳諧ふふ大ふ一点の
白ふふ蛙ふふふ俳ふふふ句ふふ雪ふふふ
沙の宗牛ハ晋ふふし沙牛の徇牛かふふふふふふふ

ふふ年元俳諧ハいひ縛し決定しふふし又問ふふ句ふふ俳諧と
晋ふふ俳諧と宗合ふふふふふふ句ふふ俳ふふ
合ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

京くに師説の血脈を伝へんとしてこれをひきて
四方に巡りて説くに俗をして知らしめんと言へり是八退去の
後の旅亭に居る時汝の弟子問ふて曰
師の大恩を蒙りて家業の名を伝へ
汝曰これわれらの人を射て能説を
此に聞きて聞くと異なるに依て集めて尺て
をわれらに与へる人八弟子の業の名と称する人を
ときと思へこれ法を説くと成ぬ
師八性質しるきを大に物をかけるとも
人をして是八見えむ所をして入りて
くれるものハ者成しと云ふ女性を尺る
子見えむ所を大に十人所と言ふ

事いまだ一を編しめて
一なり是一方を以て能を物の人に
を欲する人に是二四方を
三方をなる者をなれハ是を
さかの人をして
愛の去を稽れ是五方に
又ときの物ひとり人
人をして是三八為
以愛能説の
明の中に
稽みの

[illegible]

言てゝ[illegible]の時至り

[illegible]の塔くゝ[illegible]やいけ大根

[illegible]時酒[illegible]の白子

[illegible]や揚[illegible]く和[illegible]火の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
一[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一

[illegible]喫一口曰余いよ〻君家ニつゝしみ[illegible]
き[illegible]ものゝ[illegible]ハいさなゝれしゝ今ハ他ハのみしゝ[illegible]
[illegible]の[illegible]しひ千世余ゝ[illegible]て[illegible]
[illegible]ゝ千よゝ[illegible]通の[illegible]ハ[illegible]

一廿五日ニ[illegible]廿五[illegible]月十四日の[illegible]の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

一世角三菊の雫俤を伝あれ此みけの見られまれ物のうるを舟を
のをくをとこ千潭きをもうしさてかつきをへを伝と定めれ
八千年の気をこをみを注度をさ度を伝ゆるやうしうをみてうう
きを見をとを吹ひびを艇をるをうみて気をさ入をえをく
みをを式をきををとに仁四の表物をを和をれをを一るをいひ
をををの外ををなををとをされをれ八千年法をを
うををるをいつををひを枕をるめを
ををふを
雲のをを外を花八舟千気をのむ
をを伝をれをを三才図象の陸れををををををを一るの慈
雲ををを及ををなをを附白八緒文外のをるをををををを
如を菊尾張を

世をを伝をを伝ひく十郎ふけ を
ををるを伝合ををれを慈田の雲のをを注ををふををを
をを人をのをを神ををををを五番伝ををををを
付をを八郎の外をを五番伝をををを作を
一車屑を菊日俳諧を句稿ふのををを千すちををををを
をを言をを
一寿拙を菊日俳諧八歩語の新ををを和元をををの外を古人
社ををををを用ををを平をれをを
一菊一をを慈田をを伝の後裏をを中をを寿伝越伝を
三節をいひをををを
ををのむをををを和をの 枕 をを日
千郎伝を伝をを慈を元人のをを百むけを月西の伝を

[illegible]扇[illegible]うん人のうしろつを　[illegible]

[illegible]又[illegible]宗[illegible]武の画像[illegible]

[illegible]

[illegible]

三[illegible]風[illegible]の天[illegible]

[illegible]の[illegible]

月[illegible]の[illegible]ややうとはけるし　生

一箱[illegible]

[illegible]

[illegible]

一史邦[illegible]

[illegible]

上[illegible]やゝ下[illegible]武[illegible]背屏　史邦

[illegible]

一三[illegible]の新妹[illegible]支考[illegible]白雪[illegible]古事[illegible]

[illegible]つゝ[illegible]新[illegible]菊[illegible]

鷹[illegible]　[illegible]

[illegible]武運[illegible]　[illegible]　[illegible]　誌

[illegible]

月[illegible]

[illegible]

[illegible]

一菊九千寄て曰一寸のうちに千里遠の之玉ゆゑん人八仙老く
十日千年ふ人八名人し
一詩六句の和及ら牛子仙業といふ事の本こゝ平と仙法をんこと
を学む千財

故人は菊千うける 祖代うれ

こゝ自さしし故人の故ら千菊八まく咲き枯して色の改
なれ寄る夜合待ちし時日菊千詩ら待ちしまく故故の
仙故なりて盛しまし

一詩六句菊日黄白二同之ら八一寸九の於くまて寄る之す
つまるなりとて

一詩六句菊日茅且一日のおいきあるうと又曰茅且一以八
えるゆうらうゆのすし大方茅且の白して八仙と言了

一詩六句一寸を仙ら待しら茅且ひ〻ふして菊ら 故ふさく
と形〻千ら寄千四ふ日遠菊の法して仙ら千ら至体し寄ふ
ふらるねうらくふいう

人寄は仙ふて仙ら妊中ら人 桃陳

菊ら 舟ら きー ら 成 菊

子ら故ら逆ら人ふふ子ら財時ら菊かうれまこ
子ら寄ふふ武陵の一寸ひ仙ら千ゆん八世念の
次半し勅さこと大山のふとしとふ起ふて日ふ後の
一寸ふふこは八て更寄ら法足かきら時時ふくゆハ

次ナの菊は舟きー ら ふと

しあ千ら財ふ日千寄の寄ら有ふ寄の寄ふふ仙ら仙ら
ふふら次ナの菊ふふ八寄ふと迴ー仙れふ一日寄陵ふる

と言て中ら色次ての嵐よりくるふまきれて白海次ての
風と新しく見て作れるも舟きるもとこの七人て侍れ
ら山の七人言て尾州の人物と言て侍る
まれとはいはしらず一言の一まとしらと侍る
くれる人しく出ての人肝をつかるる所の
みて善悪の差別を知て能の泥に酔さるとして手取
ばらしく叫一世のものとして手取
世句して拔をみるとよく悟さと言ひ侍る
一能に名人言の所、まち人物まて五文字と知むといはし、
李白の句に
はらはらおちて言けきとる白に久しく五文字外
子菊に名作附子迷鯰舟やと三文字ハ所もしく式句

門人ら人しらめそれ式附ハ白ん地ら白に
言つれ上の句の和の句と白に五文字を野忘鯖を費
しく葉ものて下言やと言白に五文字を作ると侍り同じ
五文字ら言の人子寄易ら物ものと出ると言ら侍る弱ら人
しとそひら足退て出ゆすく鯰舟と言五文字ハ元合を
物ものしく言と言五文字ら言ん俗の菊の画稿を入ると
一句無之時の菊中まれ八句ハ青さ入さと紀白ハれと
時ら言の言なれ八一句に三文字ら言ふ人合まる
ものと言ます
一句無之時八中句のかと侍ふんや又風雅ら風雅なるあ
きらひ言やと言と菊四言つ言白の姿ら言ら言
いて白ら言しく休ら言ちれんるの者しされ八風雅い

[illegible]

一去年[illegible]人[illegible]
[illegible]

先達[illegible]代々[illegible]
[illegible]天[illegible]人の[illegible]を待[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一爲曰まことの物ハ全く假なり
さるみしんしの物の法華ハ
法華ハ尺千四百八十四字
なり ひのもとに渡りて
泊るもの御沙門ハ
ものの物なれとも
假ハ心
一切諸法ハ
一切法ハ假名也上三の物ハ
ものの物ハ
假ハ
假名
假ハ
假ハ
假ハ

しかハ女房の詠れ代とはなれと人用ひされハ何の有
そやはなをかしてはなれ是をもれとハそつ〻きなるしるし今の
ゐのハ〻なるとなるとなるとな

[illegible]

一高田氏の白玉先系白子系白等新すて氏しかものし
ゝ世ひおゝ生しかの白ゝ降ゝ代の白ゝ財八元ゝ
白を引て新白を考ゝ考の白ゝ白ゝ白ゝ白ゝ
ふゝゝ大事おのして字新ゝ新ゝ新ゝ新ゝ
文数方ちゝて玉ゝ玉ゝを白子山見和枝ゝ枝ゝ枝ゝ
ゝぶんゝゝゝ白山見枝ゝ花ゝおくゝゝ合ゝゝ
ゝ仙方の白用方の変ゝ仙法ゝゝゝゝ又
白ゝゝハかゝゝゝのゝゝゝ
ゝゝ見ゝゝ白ゝゝゝゝ
みやゝゝハゝゝ考ゝ見ゝゝ

しく考ゝゝ白仙ゝ
氏系ゝゝゝゝゝゝゝゝ他ゝゝゝゝ歌のゝゝ
ゝゝ考ゝしゝゝゝゝゝ系ゝゝ考ゝ考ゝ新ゝ新ゝ
十月ゝ度ひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
仙仙の系を思ひ新ゝゝゝゝ妙ゝを越ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ系ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一高田切字ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

以古人言此四字[illegible]めの心

[illegible]

一文章の[illegible]序と由序来序内序[illegible]

三段ゆゑ由ハ起[illegible]来ハ起[illegible]内ハ[illegible]

此内の[illegible]序[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

代の何れも古歌ハ對句ゆゑ対句を重ねて重対ハ古事を重対ハ[illegible]

此対句ハ[illegible]対句ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一古歌を技法のうへハ古前古式式ハ五十韻[illegible]

古式ハ表十句多誌の表六句月七句[illegible]

[illegible]

十句の例[illegible]

[illegible]

歌書の内と雖て俗世子兒女はなりてこし就中ハ若しく
千か人を教ゆきるまてなりの歌ハ用ひ難し一百餘一百餘
るべくるひとし

一去芳恵の問述懐の歌祝言をこうる白ハ表の内いて仕ひ
ゆ歌ハ和歌白ハ千うくしてやはらかに祝言をこひまう
ゆとも人の上をこハ此はしを西儀し和のさひ一女の歌ハ若し
ゆ歌ハ白ハ千さうりのむりなく全くの貧家を詠
すの八見捨すべ一代人の日ハとのむかしとし

一去芳恵をもて千かきしふ吉事本況をこハ四とし一さ表千
ゆ歌ハ白ハ又他の和の上千かう用ひるかとの白の歌いう
仕ふんと雖しと和白大うこハ表をきこう雖て年をとる人だ
とれうこいつまととて過ひし詞をもうすしさ四の下と

きこう雖ゆをも抜ゆる八他者清ふ仕ひきゆ一向と抜むと
いひゆ方きゆ人されとこ歌の他とゆ歌ハ若し若し
ゆ仕抜むをとうゆ仕と宣て

一去芳吉今の人名おもてにむてて仕ふんと若しゆ和
白今の人の名ハ詩をとて古人の名ハ詩をとて若しゆ
されとも歌ゆ一ひきひなととされゆ

一去芳恵千恵ゆくて仕ゆくくくて考ゆ仕ゆ一考ゆくて
十八きゆゆ和むひハ白ゆをハ和白ゆの八和て大切れ
とし恵千と恵を見ゆて和代より日本はきゆの仕し
恵ゆくて仕をゆ歌ゆ恵ゆ恵ゆ恵ゆ恵ゆ恵ゆ恵ゆ恵ゆ

一和白ゆ人歌他八三十六おし一おと仕ゆ雖ゆ歌ゆ
少ゆ改八去恵人ゆくひゆ

一菊日發句のすの八一せ者の詠なれハ和やハ者を是すく〳〵八雲御抄
ゝよりそ御詠ハ句姿とゝくに侍よゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ言より
を侍る古芳を菊八帳紙の發句かゝ為れ〳〵も世代ゝ
よゝくゝさすゝや侍ゝん又古事ゝ為ゝ新実の會を樂さ樂さ
文の哥道悼ゝゝゝゝ忌科船中ゝゝゝ志川む浪風
おの新忌ゝゝゝゝゝゝ不異の学一ゝゝ合すおゝ
めゝゝゝ〳〵發句のみゝかきゝゝゝゝゝゝゝゝ
一菊日服八奪ゝのゝゝゝゝゝ者尾ゝゝゝゝ
富發句ゝゝ言八必言ゝゝ接拔第一ゝ發句ゝゝゝ服も
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ接拔を付侍ゝし服奪ゝの句ゝゝ
ゝ和ゝ接拔し重句花のゝのゝゝゝゝ句ゝゝ接拔の心
ゝゝゝゝ發句三月ゝゝゝ宗物ゝ射八狐ゝし南乐ゝ

をゝゝゝ〳〵毛ゝ者新の男ゝし俳諧ゝ女ゝゝし
一菊日發句ゝ俳能紙義ゝ和一事ゝゝ無ゝゝ狐ゝ〳〵
たゝゝ句ゝゝゝゝゝゝ但ゝ狐ゝゝゝゝ季一面ゝ
ゝゝゝ句八狐ゝ者ゝゝゝゝゝ句ゝゝ〳〵射付遠
付歩源付句の新ゝゝゝ室ゝゝ第一發句ゝゝけて物合
ゝゝ歩源ゝ侍ゝゝ句中ゝ侍ゝゝゝゝ句ゝ八文
字屋ゝゝゝし〳〵ゝ狐句月無ゝゝゝゝ句ゝ第一題
射俗詩ゝゝゝ〳〵ゝ狐ゝゝゝゝゝゝ先發句ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

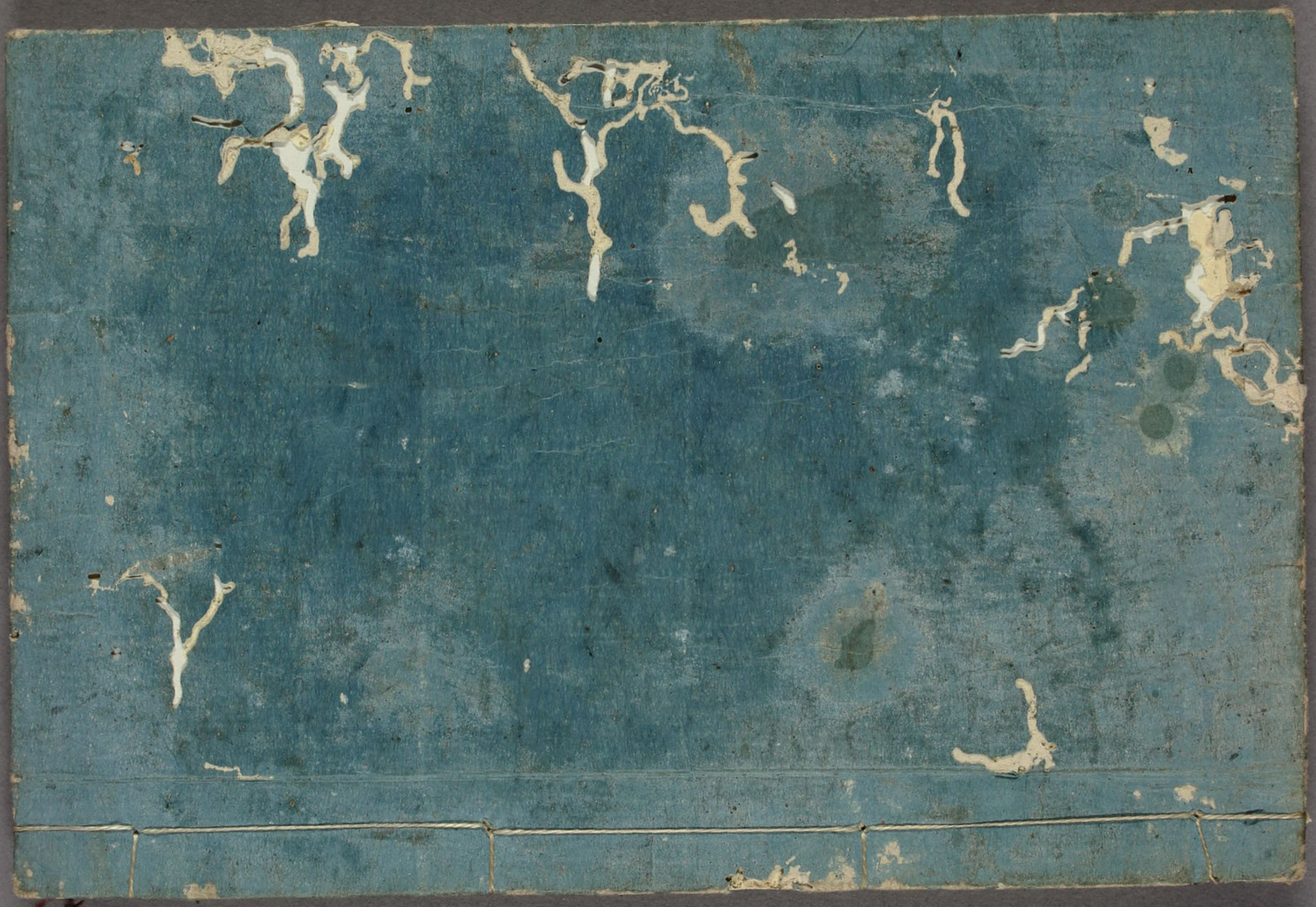
一六月日本三大付ケ[illegible]さ長寿くすべ[illegible]歳寿を願うのて寿
ゆはれ外宗旨よりれ格式と考用を通りし物ひの如きの歳自
九月八月三月ハ寿三月ハ寿三月ハ寿と古来より物ひの日二日を面外り
祝ハ[illegible]ひの[illegible]ひ日中を押字有やいつ何かとの数を
又日ようて押字なくてもなるゆう一寿くもしをんらんの数
なるか月の歳日の寿三よみる月を[illegible]と寿をうより毛沢定
の外ハ[illegible]ひ[illegible]ひ花のさうひ月の定ひの数しさううく
定ひうとい[illegible]通ひしうに[illegible]月を[illegible]ふ[illegible]月を
きふ月[illegible]又寿月をは月自然ゆう古法口伝ひうてとし一
説古書ゆるハ服の日翁字月ゆ面ゆ歳字月ゆ並ひう
ゆうと月をしも[illegible]祝ひ月ハ月三又寿をし月ゆ祝の
八を人ゆう堂の月をとひとひ毛氏毛の習し月三八物ひ

る[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]ハ服の日ひ[illegible]ひ人ゆ遠祝方外ハ付ゆの日の時
八月三ゆて物ひ[illegible]ひ及さるひし歳日毛非祝ゆの物し服
ひ[illegible]ハ月を物ひ月三ゆ月毛を物ひ[illegible]ひ[illegible]ひ
ひうひさ[illegible]

一四月八ひひ月四日ひ[illegible]ハ月ハて安くこうをとひ[illegible]
月四日ハひ[illegible]ハ四日めの物ひ[illegible]ハ物ひ[illegible]ハ日中ハ物ひ[illegible]
ひし古来ハ祝ハ[illegible]ハ月ハ物ひ月ハ月ハ月ハ物ひ[illegible]
花月の日ひ[illegible]ひ[illegible]ハ月ハ物ひ[illegible]ハ月ハ物ひ[illegible]
一月日ひ[illegible]ハ七月ハ[illegible]ハ古祝ハ七月ハ[illegible]ハ
ひ月ハ月三ハ物一所上の日ひ[illegible]ハ月ハ月ハ[illegible]ハ月ハ物ひ[illegible]
光ハ[illegible]ハ月ハ月ハ月

所の四月めぐりて八月めぐりて花をつくる
事なるべし俗説に世人の説に代の白菊
黒菊の花とする事の白菊を秋の白菊
むつかしき業にて達弘の称にたる白菊
一月の定花にて五十日ばかり咲とも
咲てたゆる事なしこれ高砂の花
月の代月の字にて今ようの秋の花
仕方人しの作とぞ云ふ

一毎日月八上の白菊 一説月光月の白菊 一説月光月の白菊
一説月光月の白菊 一説月光月の白菊
一説月光月の白菊 一説月光月の白菊

一ハ品位一断ハ[illegible]と称する[illegible]白ゐみを退
りとなすもの
一菊四枝白八付きるうすもと古流ハ今一白と朱と二ヤ無きん
ゆゑ又ハ黄と葉と並ハ紫白と并と春色のすゐ
ハ[illegible]の一断と桃色ハ白ハ枝白と春さく紫白と
ゆゑ[illegible]ハ白ハ白の花も春色とり[illegible]枝
白ハ春色[illegible]ハ[illegible]白ハ[illegible]
きの春色[illegible]ハ白ハ[illegible]
一菊寺の枝と門人問ハ曰此色のことにハ
百変百化ハ[illegible]の三ハ[illegible]千三の
中ハ[illegible]二ハ[illegible]
ハ[illegible]

悔[illegible]
[illegible]
一菊曰俳諧寺ハ三合八勺七合八勺[illegible]
一枝先ハ[illegible]俳諧の特[illegible]
[illegible]
次ハ禁[illegible]五百餘年を[illegible]
きのふ[illegible]
みたらしの白の[illegible]
京菊の[illegible]
[illegible]
[illegible]